

## 編集後記

当協会では、東日本大震災の被災地域の復興支援の一つとして、6月末に開かれる台北国際食品見本市に、輸出拡大を目指す東北の8つの自治体・団体を構成する交流協会パビリオンを設置・運営します。

日本食品の輸出とは反対に、台湾からの輸入食品と聞いてどんなものを思い浮かべるでしょうか。バナナやうなぎ、茶葉や冷凍枝豆等は馴染みがあると思います。最近では季節物のマンゴーやポンカンが人気を得ているようです。土産物としては、からすみやパイナップルケーキ等がありますが、最近はなんと台湾産のウイスキーやコーヒーも出てきました。

ウイスキーが台湾で製造されるようになったのは最近ですが、少数民族の名がつけられたKAVALANと言うブランドが、2009年以來いくつかの国際的な賞を獲得など高評価を得ています。コーヒーは日本統治時代から栽培されており、最近は外資系カフェの進出が著しく、コーヒー消費量が増えています。

幾つかの台湾の機関や団体が日本国内に事務所を置いています。その内の一つ、工業技術研究院（ITRI）の東京事務所の新所長就任披露の集まりがあった際に、台湾産のドリップ式レギュラーコーヒーの個装パックと「80万公里的熱情 釣竿科学家と花東農民の故事」という本が参加者に配られました。コーヒーは「台東果子狸珈琲」とあり、配られた本の中に台湾東部の産業発展に力を入れた成果の一つとしてそのコーヒーの開発協力の話も入っていました。

その本によると、インドネシアにジャコウネコの糞から採取した未消化のコーヒー豆から作るコピ・ルアクがありますが、「台東果子狸珈琲」は果子狸（ハクビシン）の腸内菌を用いて体外でコーヒー豆を発酵させる技術により、コピ・ルアクと同様のコーヒーを作ること成功し、製品化したとのこと。その開発過程において、ITRIの技術者が協力し、その後も、出張者の土産に使用するなど、宣伝にもITRIは協力しているようです。

飲んでみたところ独特の香りと味があり、時にはこんなコーヒーもいいのではないかと思います。台湾産ウイスキーとこのコーヒーを台湾のどこかで見つければ、是非お買いになり試していただきたいと思います。

（貿易経済部次長 早瀬 太）